様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　2025 年　1 月　15 日

１．職名・氏名　教授・久米真代

２．学位　　学位　博士　、専門分野　看護学　、授与機関　石川県立看護大学大学院　、授与年　2017 年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 成人・老年看護学概論（1 単位）2 年前期
②内容・ねらい 老年看護を初めて学ぶ科目であるため、高齢者の身体と心、社会の中での高齢者に関心をもてるようにする内容である。成人との違いを考えられるようにしている。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 視覚・聴覚の加齢変化を経験するため、高齢者疑似体験を取り入れている。また、臨床現場の活き活きとした実践と老年看護の展望を感じられるよう、老人看護専門看護師による講義を取り入れている。 【ゲストスピーカー：老人看護専門看護師１人】
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 老年看護援助論（2 単位）2 年後期
②内容・ねらい 高齢者に多い身体疾患、特に食と排泄、運動器と活動、認知機能障害を取り上げ、看護に必要な知識を強化する内容である。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 臨床で遭遇する状況を取り入れながら老年看護に必要な知識を修得できるようにしている。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 セルフケア支援論（2 単位）2 年後期
②内容・ねらい セルフケアの視点から、心不全をもつ患者への看護を創造する部分を担当している。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 老年看護援助演習（1 単位）3 年前期
②内容・ねらい これまで学んできた知識をさらに強化し、使える知識にするための演習、看護過程の展開、模擬患者への実践を行う内容である。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 看護過程の展開を行う中で、立案した計画を実施する機会を設け、一連の過程を実習前に経験できるようにしている。また、認知症看護認定看護師の方 4 人に協力をいただき、模擬患者になってもらっている。緊張する環境で自分たちの立案した看護計画の実施を行うことで、うまくいかない体験や思っていなかったがうまくいった体験ができ、よりよい看護計画へ修正できることを目ざしている。ロールプレイ後、認知症看護の専門家とグループごとに討議をすることで、柔軟な発想ができるようにしている。 【模擬患者 4 人】

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
セルフケア支援演習（1 単位）3 年前期

②内容・ねらい
セルフケアが必要な慢性心不全に罹患し、認知機能の低下している高齢者の看護過程の展開を行う内容である。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
複数の疾患をもつ事例を設定することで、複雑に関連する身体面のアセスメント能力を高められるようにしている。また、認知機能の低下している高齢者のセルフケア支援を考えていくことで、課題解決だけでなく強みを活かした看護の重要性に気づけるように、少人数のグループワークを取り入れるだけでなく、担当教員との討議ができる環境を作っている。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
老年看護援助実習（2 単位）3 年後期

②内容・ねらい
介護老人保健施設および介護老人福祉施設の計 4 か所で実習を行い、認知機能の低下した高齢者の希望をかなえるための看護について学習する。多職種が協働するなかで、看護師の果たす役割や老いを生きる高齢者への看護を考える内容である。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
多職種カンファレンスへの参加を行い、多職種連携における看護の役割と高齢者の希望をかなえるための課題を考えられるようにしている。また、フィジカルアセスメントを取り入れることで、施設のなかで看護師の果たす役割を理解できるようにしている。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
セルフケア支援実習（2 単位）3 年後期

②内容・ねらい
急性期病棟に入院している患者（成人期～老年期）へのセルフケア支援を学ぶ内容である。単にセルフケア支援を行い看護過程の展開を行うだけでなく、自身の行った支援内容について振り返り、事前学習をした理論を使いながら実践の意味づけを行う。実践、振り返りを通して、セルフケア支援とは何かを考えていく内容である。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
実践の振り返りでは、事前学習の共有、個人ワーク、グループワーク、グループ討議を取り入れることで、セルフケア支援についての見方の広がりや支援を行うときに重要となる点について理解を深められるようにしている。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
老年看護発展セミナー（1 単位）4 年前期

②内容・ねらい
既習の学修内容をさらに発展するため、認知症疾患治療病棟でフィールドワークを行い、認知症看護の専門性と課題を考える内容である。今年度、フィールドワークは中止となったため、事例を用いて認知症看護における倫理的課題や専門性について検討を行った。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
正解探しにならないよう、各自が感じたこと考えたことをもとに討議を行い、様々な視点から認知症疾患をもつ方の理解を深められるようにしている。フィールドワーク時は、協力施設のスタッフのケアに一緒に入ることで、高齢者中心に看護を考えられるような場を作っている。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
卒業研究（3 単位）4 年通年

②内容・ねらい
学生のもっている疑問や関心をもとに研究課題を明確にしたうえで、倫理委員会への申請、調査研究を行い論文作成、発表を行うものである。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
老年看護学特別研究（10 単位）修士 2 年通年

②内容・ねらい
修士論文作成に向けて、文献検討、研究課題の明確化、研究計画書作成など看護研究の一連の過程を身につけるものである。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
研究者としての第一歩となるため、作成過程を丁寧にたどれるよう、時間をかけて指導を行っている。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
健康福祉学特論（2 単位）博士 1 年前期

②内容・ねらい
社会福祉政策の歴史を学び、高齢者福祉とくに認知症高齢者に関する課題とそれに対する解決策について考え、社会全体の Well-being の向上に向けたアプローチ方を学習するものである。

(2)その他の教育活動

内容
特になし。

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【0 本】
②学術論文（査読あり） 【0 本】
③その他論文（査読なし） 【0 本】
④学会発表等 1. 地域包括支援センターの看護職が行う慢性心不全をもつ独居の認知症高齢者への支援，日本エンドオブライフケア学会第 7 回学術集会，2024 年 9 月，山田知樹，久米真代 2. 能登半島地震で自宅を失った高齢者とその支援の実際～被災した高齢女性の 1 事例から考える～，日本エンドオブライフケア学会第 7 回学術集会，2024 年 9 月，堀田真弓，曽根志穂，久米真代，金谷雅代，彦聖美 【2 件】
⑤その他の公表実績 【0 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 ・ 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究「一般病院に入院した認知症高齢者の生活機能低下予防プログラム構築に向けた基礎研究」（令和 3 年～令和 6 年） ・ 科学研究費補助金　基盤研究（C）一般「疾患の回復過程にある認知症高齢者に対する日常倫理に基づく生活援助」（分担研究者）（主任研究者：渡辺陽子）（令和 5 年～令和 8 年）

(3)特許等取得
なし

(4)学会活動等
・ 日本腎不全看護学会　編集委員会　委員 ・ 日本看護学会―在宅看護―論文選考委員 ・ 日本エンドオブライフケア学会第 7 回学術集会　企画運営委員，査読委員長 ・ 日本エンドオブライフケア学会第 7 回学術集会　シンポジウム座長（2024 年 9 月） ・ 日本透析医学会「末期腎不全患者に対する緩和医療・ケアに関する提言」第 6 章　研究協力委員

５．地域・社会貢献活動

・レビー小体型認知症サポートネットワーク石川　代表（レビー小体型認知症の当事者およびご家族、支援者が相互に理解し合い、悩みを解決する場の運営　2016 年から現在に至る） ・令和 6 年度保健師助産師看護師実習指導者講習会　講師（公益社団法人福井県看護協会、講義および指導案作成のオリエンテーション、指導案の発表会での総評、2024 年 7 月 30 日、8 月 6 日、8 月 30 日） ・看護師リカレント教育講座「看護研究っておもしろい！研究のヒントが見つかるかも？」オンデマンド配信、「認知症高齢者の痛みを早期発見するケア」6 月 17 日～7 月 31 日及び 11 月 1 日～12 月 20 日配信

６．大学運営への参画

(1)補職
なし
(2)委員会・チーム活動
・倫理小委員会（2022 年 4 月～） ・研究活性化 WG（2022 年 4 月～） ・学生支援委員会（2023 年 4 月～） ・カリキュラム検討委員会（2024 年 4 月～）委員長 ・修士課程（看護学専攻）ワーキンググループ
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など